

ターニングポイント＝**転換期**

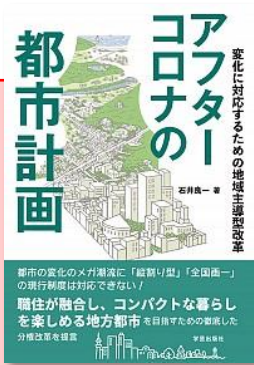
大学生活は社会に出る前の、大きな転換期を迎えるための準備期間といえます。

大学で何を学び、どう過ごすかはこれからの人生に大きく関わってくるでしょう。

「産業革命」や「バブル崩壊」など、社会情勢を大きく変えてきた「ターニングポイント＝転換期」

を学び、これからの人生を豊かに過ごすヒントを探してみませんか。

展示館：平井嘉一郎記念図書館 ● メディアセンター ● メディアライブラリー ● OIC ライブラリー ●



アフターコロナの都市計画～変化に対応するための地域主導型改革～

石井 良一 著 / 学芸出版社

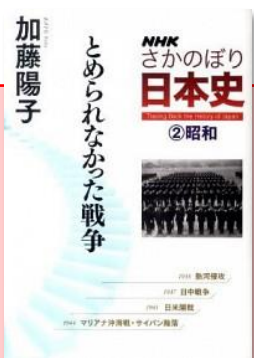
コロナ禍の影響を受け、将来の働き方やどこに住むべきかなど、改めて考えている方も多いと思います。今後の都市のあり方について、都市計画区域、立地規制、開発許可など都市計画の課題を挙げつつ、国内外の先進的な事例についても紹介されている本書で学んでみませんか。



テクノロジーの世界経済史～ビル・ゲイツのパラドックス～

カール・B・フレイ 著 村井 章子、大野 一 翻訳 / 日経 BP 社

数年前、「今後、今ある職業の半分が消える(AI やロボットに置き換えられる)」という論文が話題になったのを覚えているでしょうか。本書は、その論文の共著者が、テクノロジーの観点から人類の歴史を考察しています。さらに AI や自動化が進む将来、人類の運命は・・・



とめられなかった戦争

加藤 陽子 著 / NHK 出版

満州事変から太平洋戦争まで、なぜ戦争の拡大を止めることができなかったのか、やめることができなかったのかを、いくつかのターニングポイントから探ります。



戦争まで：歴史を決めた交渉と日本の失敗

加藤 陽子 著 / 朝日出版社

戦争に至るまでの段階で日本は三度世界から選択を迫られ、全て道を誤り続けたというのが著者の見立てですが、なぜそんなことになったのか、より良い道を選択できなかったのはなぜなのかを考えるための本です。



それでも、日本人は「戦争」を選んだ

加藤 陽子 著 / 朝日出版社

戦争は独裁者が反対者を粛正して始めるものだと思っている人は、先の戦争が国民の大多数が「やむなし」として始めたという事実について、なぜそういうことになったのかを考えてみる必要があるでしょう。



ヨーロッパ世界の誕生 : マホメットとシャルルマーニュ

アンリ・ピレンヌ 著 中村 宏 訳 / 創文社;講談社

ローマ的世界を崩壊させたのはゲルマン民族の移動ではなく、イスラムの拡大による西地中海封鎖にあったとする、ヨーロッパ中世史研究の古典です。



市場対国家 : 世界を作り変える歴史的攻防 上下

ヤーギン、スタニスロー 著 山岡 洋一 訳 / 日本経済新聞社

新自由主義は資本主義社会に取返しのつかない傷跡を残し、ソビエト連邦の崩壊に止まらず、我々自身が後戻りできないところまで来てしまったのではないかと思います。グローバリズムに国家が飲み込まれてしまったら、その先に何があるのでしょうか。



危機と人類 上下

ジャレド・ダイヤモンド 著 小川 敏子、川上 純子 翻訳 / 日本経済新聞社

様々な国家の危機の乗り越え方を概観できます。ターニングポイントでどのような判断があり、それはうまくいったのか、いかなかったのか。
※文庫版はコロナ禍の状況を踏まえて増補されています。



敗北を抱きしめて : 第二次大戦後の日本人 上下

ジョン・ダワー 著 三浦 陽一、高杉 忠明 翻訳 / 岩波書店

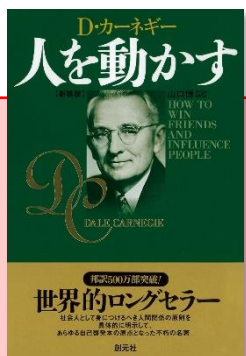
外部(勝者)から見た転換期の日本人の生き方。改革されたもの、されなかったものを「客観的」に、写真も多数使いながら描写しています。



2030 年～すべてが「加速」する世界に備えよ～

ピーター・ディアマンディス, スティーブン・コトラ著 土方 奈美 訳 / ニューズピック

10年単位で世界を見た時、この10年のテクノロジーの進化は凄まじく、その速度は加速している。次の10年はどんな世界か。ベストセラーである本書では実際の実現されている驚きの技術が多数紹介されている。空飛ぶ車は現実だ。フィクションからファクトになった世界を知ろう。



人を動かす

D・カーネギー 著 山口 博 翻訳 / 創元社

既に読んだよという人も多いと思いますが、あえて推薦させていただきました。これから大学生、そして社会人になるというターニングポイントを迎える皆さんにぜひ読んでいただきたい世界的名著です。



検証 バブル失政

軽部 謙介 著 / 岩波書店

学生の皆さんのイメージするバブルは大きな携帯電話、肩パットの入ったスーツ、バブリーダンス、etc. でしょうか。皆さんが生まれる前、日本は「バブル」と言われた好景気に沸いた時代がありました。当時の金融行政を関係者の証言で綴っています。



「ストレスマネジメント : 「これまで」と「これから」

上里 一郎 監修 竹中 晃二 編 / ゆまに書房

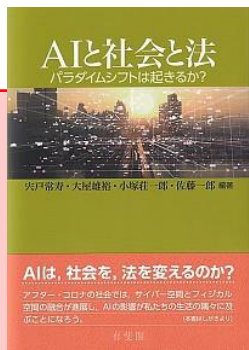
本著は、学校・職場などにおけるストレスマネジメントについて、現状と課題、そして研究内容を詳述している。環境が変わったとき、新しいことに挑戦するときなど、ストレスが生じたときに読むと対処のヒントを得られることだろう。



人類史マップ〜サピエンス誕生・危機・拡散の全記録〜

テルモ・ピエパニ, バレリー・ゼットゥン 著 ナショナル ジオグラフィック 編 小野 林太郎 監修 / 日経BPマーケティング

実は一本筋ではなかった人類の歴史について、本書では豊富な地図、図解、写真などを用いながら詳しく説明しています。気候変動や飢餓、病などの危機を乗り越え、絶滅から生き残った我々の軌跡をたどってみませんか？



AIと社会と法：パラダイムシフトは起きるか？

矢野 常寿 他編著 / 有斐閣

AI=人工知能という言葉は、すでに身近になったようであり、まだまだ未知の部分が多いのではないのでしょうか。

本書では、AI が社会に与えるインパクトに、法という人間が作ったもうひとつのシステムがどのように向かい合うのかを探求しています。



怒りの時代—世界を覆い続ける憤怒の近現代史

ミシュラ・パンカジ 著 秋山 勝 訳 / 草思社

怒り—そのありふれた感情は、しかし時には火山の噴火のように爆発的なエネルギーを生み出します。歴史上、この怒りによって幾多の戦争、革命、テロが行われてきました。本書は、これらの怒りが紡いだ歴史を詳細に検証し、そして、これからの未来について考察しています。



勤勉革命～資本主義を生んだ17世紀の消費行動～

ヤンド・フリース 著 吉田 敦、東風谷 太一 翻訳 / 筑摩書房

産業革命を引き起こしたものは何か？その前提となる導線を、著者は「勤勉革命」と呼ぶべき社会現象に求めています。

消費願望、よりよい生活へと人々を駆り立て、労働市場に導いたものの正体とは、いったい何だったのでしょうか。



人類とイノベーション～世界は「自由」と「失敗」で進化する～

マット・リドレー 著 大田 直子 翻訳 / ニューズピック

AI や SNS、産業革命からワクチンまで、時代を大きく揺るがし変えていくイノベーション＝技術革新は、いかにして生まれるのか？

イノベーションが起こる仕組みを、歴史的な考察を交えながら企業の事例も取り入れて分析していく、知的でスリリングな一冊です。



渋沢栄一に学ぶ大転換期の乗り越え方

田口 佳史 著 / 光文社

日本の近代経済社会の基礎を築いた実業家で日本資本主義の父と称されている渋沢栄一は、事業家であるだけでなく、福祉事業や教育にも力を注いだ人物です。江戸時代から明治への日本近代化の転換期に大きな功績をあげた渋沢栄一について触れてみませんか。



1932年の大日本帝国—あるフランス人記者の記録

アンドレ・ヴィオリス 著 大橋 尚泰 翻訳 / 草思社

1931年の満州事変、1932年の五・一五事件、1933年国際連盟脱退と日本が太平洋戦争へ向かう時期に、日本に滞在していた『ル・プチ・パリジャン』紙の特派員が、関係者にインタビューを行った記録です。岐路に立つ日本社会をフランス人記者が客観的に記しています。



ポピュリズムという挑戦 : 岐路に立つ現代デモクラシー

水島 治郎 編 / 岩波書店

ポピュリズム＝「大衆迎合主義」とも言われています。リベラルな価値や民主主義のルールを前提としたうえで、価値観の違うものを批判し排除を行っています。このような既存の政治を揺るがしているポピュリズムについて 11名の政治学者が変わりゆくデモクラシーについて論じています。



未来探究 2050—東大30人の知性が読み解く世界

東京大学未来ビジョン研究センター 編 / 日経BPM

2050年、日本は、世界は、どのようになっているのでしょうか。この本は文系・理系を問わず様々な分野の最先端の研究をわかりやすく紹介しています。大学の研究がこれからの社会を変えるヒントになる可能性を探っています。



「感想文」から「文学批評」へ～高校・大学から始める批評入門～

小林 真大 著 / 小島遊書房

学生時代に読書感想文が苦手だった、という方も多いでしょう。大学の学びではさらに「文学を批評する」ことが求められます。大学生になると急に何やら難しい言葉が次々と登場して戸惑いますね。難しく考えすぎないで、まずはその入り口を覗いてみませんか？



「大図鑑コードの秘密」～世界に隠されたメッセージを読み解く～

ポール・ルンダ 編 浜口 稔 翻訳 / 明石書店

今でこそ「code(コード)」という言葉は身近に溢れていますが、その始まりは太古の昔に遡ります。人類の歴史と共に様々なコードが生まれ、発展し、変化してきたのです。生きるための知恵から宇宙開発まで、コードのメッセージを読み解くことで世界の見え方が変わるかもしれません。



情報の歴史 21～象形文字から仮想現実まで～

松岡 正剛 監修 編集工学研究所 イシス編集学校 構成 / 編集工学研究所

人類はどのように情報を得てそれを伝えてきたのか、人類の歴史を情報の歴史とともに紐解きます。7000 万年前の象形文字から始まって、仮想現実など多様な情報が溢れる 2020 年まで、情報技術・文化の世界同時年表を掲載し解説しています。



東日本大震災と原発事故からの 10 年

東日本国際大学健康社会戦略研究所 著 / 論創社

～災害現場の初動から真の復興、そしてウイズコロナの未来へ向けての革～

2020 年 10 月に開催された国際シンポジウム「東日本大震災と原発事故からの 10 年」の記録。災害現場で実際に救援活動に携わった医療従事者をはじめとする関係者による記録を、現在のコロナ禍や災害への教訓として、これからの未来を担う人たちに知ってもらいたいと思います。



スマホで見る阪神淡路大震災～災害映像がつむぐ未来への教訓～

木戸 崇之、朝日放送テレビ 著 / 西日本出版社

阪神淡路大震災から 25 年となった 2020 年 1 月、朝日放送 HD は「激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」を web 上で公開しました。このうち 357 の映像を、本書の QR コードにスマホをかざすことで見ることができます。あの日を知らない世代である皆さんは映像から何を感じるでしょうか。



インターネットというリアル～インターネットの技術と文化の変容～

岡嶋 裕史 著 / ミネルヴァ書房

この本では、インターネットの登場が人や社会にどのような影響を与えてきたのかを検証しています。元は仮想空間であったインターネットが、科学技術の発展により今では現実と融合したリアルにまで進化を遂げています。それらは将来わたしたちにどのような変化をもたらすのでしょうか。



多様性との対話～ダイバーシティ推進が見えなくするもの～

岩淵 功一 著 / 青弓社

社会の様々な場面で推進するべし、とされている「多様性／ダイバーシティ」。しかし、本書ではそこにある問題点も指摘しており、大きな流れに一石を投じています。多様な視点を持ち、時には角度を変えて物事を見るきっかけになればと思います。



QR コードの奇跡～モノづくり集団の発想転換が革新を生んだ～

小川 進 著 / 東洋経済新報社

誕生から 25 年、今や大学、駅、店舗など、行く先々で見かける便利なアレの名前は「QR コード」。2014 年には欧州特許庁が主催する「欧州発明家賞」を日本で初めて受賞した画期的な発明の軌跡をたどります。理系でない方にも是非読んでいただきたいと思います。



エネルギー転換をどう進めるか

新澤 秀則、森 俊介 編 / 岩波書店

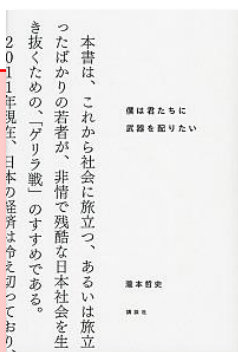
東日本大震災に伴う原発事故、そして地球規模で刻々と進んでいる気候変動によって、我々は従来のエネルギー政策の限界を迎えています。クリーンエネルギーへの転換は避けられない昨今、これからのエネルギーと環境について、学んでみませんか？



2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう : 瀧本哲史伝説の東大講義

瀧本 哲史 著 / 星海社

大学、しかも立命館に入学したのだから、近い将来に「社会を大きく変革するようなイノベーション」を巻き起こしてほしい！冗談ではなく本気でそのように思い、この本を推薦します。今は鍛錬・修行中の身かもしれない。だけど『最期に笑うのは私だ♪』と思っている皆さんに手に取ってほしい！



僕は君たちに武器を配りたい

瀧本 哲史 著 / 講談社

学生時代に出会っておきたかった♡(とほほ)「いざ人生をかけた決断！！」となった時に、後で後悔しない選択ができる人はまずもってあまりいないと思います。唯一信じられるのは自分自身⇒『(言い換えると)自分の思考の整理』、が極めて重要なことを実感できる本です。

近現代史からの警告

保阪正康

近現代史からの警告

保阪 正康 著 / 講談社



帝国主義国家への道を歩みはじめた明治期、日本の高度経済成長期、そしてコロナ危機に直面している現在など、時代の転換期に歴史から学ぶべき教訓について述べられた本です。

コロナ禍の今、まさに社会の変容に直面した我々が何を歴史から学べるか考えてみませんか。